

## 生きがいセンター設置条例改正を可決 —生きがい事業を再構築—

「生きがいセンター設置条例改正」については、厚生委員会において3月9日及び22日に審査を行いました。

本案は、現在生きがいセンターで実施している「生きがい事業」を、介護予防と社会参加の促進を目的に事業の再構築を図り、新たに「地域生きがい交流事業」を開始する。現行の「高齢者生きがい活動支援通所事業」「高齢者生きがい創作活動等支援事業」は3月で、また「入浴事業」は6月で終了する（生きがいセンターにしまちは3月終了）というものです。

議会には、現行事業の存続を求める4件の陳情も提出され、多くの傍聴者が見守る中で委員

会審査が行われました。

委員会での主な質疑としては、委員より、現行事業をどのように評価し再構築に至ったのかを問われ、担当からは、現行事業を再評価した結果、介護予防上の効果は認められるものの、社会参加、世代交流、地域との連携、地域福祉の推進などの事業達成度は低いと判断し、事業の見直しを行った。また入浴事業については、本事業の抱える諸課題や財政負担などを踏まえ終了することとした、との答弁がありました。

また委員より、現利用者の新事業への参加を促す対応について問われ、担当より、現利用者には個別の説明や相談を行うとともに、事業者スタッフや職員が「居場所づくり」となるメニューを組み立て、利用者のニーズを反映した事業を実施する、との答弁がありました。

委員より、送迎サービスの継続を求めたのに

対し、担当より、現事業の利用者で「自主事業」への参加者を対象に継続するが、500円程度の利用者負担を予定している、との答弁がありました。

さらに委員より、今回の事業再構築は利用者には突然の話で混乱を招いている。利用者に対して説明責任を果たしていない、との指摘に対し、副市長より、事業の見直しを行う場合には、利用者への十分な説明と事業の空白期間を作らぬよう配慮が必要であるが、今回この視点を欠いた対応となったことをお詫びする、との発言がありました。

委員会においては、以上の質疑の後、反対、賛成それぞれの立場から討論が行われ、賛成多数で可決しました。また本会議でも、同様の議決結果となりました。

(※各議員の表決結果は9頁に掲載)

## 市政を問

# 平成24年第1回定例会 代表質問の質問事項・答弁の要旨

議員の代表質問の質問事項及び答弁の要旨について、一定のスペース内で様式は自由に各議員がまとめたものを代表質問の順番で掲載しています。

## 市民生活を守る為の 行政運営・事業推進を！



自民党新政クラブ 楠井 まこと

問) 第四次長期総合計画の前期が終了したが、達成状況や現状に対する所見と、後期計画にどのように反映してゆくのか。

市長) 公共建築物の耐震化、保育所誘致等により待機児童の解消等においては一定の達成を見た。また昨年実施した市民意向調査において全体の88.7%の市民が住み良い、まあまあ住み良いと回答があり一定の評価は頂いたと考える。今後も厳しい状況は続くが一層の行財政改革を推進し後期計画の実現に努力したい。

問) 東日本大震災より一年が経過した。防災拠点である国分寺消防署の建替えの予定は。

市長) 泉町都有地に移転できないか現在東京都と交渉中。建替えは急務であり一層努力する。

問) 昨年原発事故以来の懸案である市内の放射能汚染についてどう対処していくのか。

市長) 今後も2週間に一度の計測を継続し、ホームページ等で公表していく。また市内小中学校の給食食材の検査も四月より実施する。

問) 生きがい事業の再編について反対のご意見を頂いているが、どう変わるのか。また市民への説明が不足しているのではないか。

市長) 同じような事業が重複している事や、施設の地域バランスを是正するために再編を行いたい。今後は介護予防、レクリエーション、地域交流に寄与する事業を展開していきたい。説明が足りず混乱を招いた事は真摯に反省する。

問) ぶんバスをはじめとした地域の交通格差の是正の取組をどう行っていくのか。

市長) 万葉けやきルートは実車走行で検証を行った。転回場所の確保等、課題はあるが今後も検討を重ねたい。西町ルートの改変も光公民館前を通行できるように検討していきたい。

問) 国分寺駅北口再開発は本年が正念場だが、決意と今後のスケジュールを聞きたい。

市長) 解体工事が進行し、いよいよだと感じている。今年度中に権利変換計画の縦覧を予定している。ご不便をお掛けしている市民のために

も早期着工に向け不退転の決意で臨みたい。

問) 市庁舎解体工事が開始されたが、新庁舎建設に向けた取組みはどうか。

市長) 施設が分散し、市民にご迷惑をお掛けしている。防災拠点として重要な役割もある。財政負担がなるべく少ない手法で、長期総合計画の後期計画に位置付けていく。

問) 国3・4・6号線、3・2・8号線の進捗状況はどうか。

市長) 国3・4・6号線は昨年東京都主導で事業を行うとの覚書を交わした。今後も早期完成に向け東京都に協力していく。国3・2・8号線においては用地の取得率は約80%となり、中央線との立体交差の橋梁工事が近日行われる。

問) 国3・4・11号線の今後の予定について。

市長) 先頃アンケートを実施した。それらを踏まえて事業を推進していく。国分寺街道周辺の渋滞緩和のためにも早急に取り組みたい。

問) 小金井市との共同処理や社会情勢を考えるとごみ処理有料化は避けられないのではないか。

市長) 近隣市の多くが有料化を進めており答申通り有料化は減量に有効であると考えている。

## 財政健全化への一歩 市民に誠実な説明を



公明党 木島 たかし

●平成24年度予算案 収支均衡にはなったが、各種団体の補助金削減を始め、医療・介護・子育て支援など市民サービスに影響を及ぼす予算だ。どのような考えで予算編成されたのか。

市長) 災害対策、命や予防等の福祉を守るための施策を中心に全体の財政性を重視した。

●行政改革への不断の姿勢を示せ

新たな行政改革大綱がまだ示されていない。これでは市の行革への姿勢が伝わらない。

市長) 遅れている。4月中に決定する。→(後の予算特別委員会で「案」が提出された。)

●老朽化した施設の効率的な維持補修対策を公共建築物改修計画策定のための施設情報の一元化は評価する。その活用法を示せ。

市長) 今までは事後対応が多くコストもかかっていた。維持保全コスト削減につなげたい。

●指定管理者制度の厳格な運用を

昨年本町四丁目臨時自転車駐車場の指定管理者による公金着服のような不祥事を起こさない姿勢が強く伝わってこない。再発防止策は。

市長) 厳格に制度運用するために問題点を明確にし、新たな指針のもと取り組んでいく。

●国分寺駅北口再開発は市民に丁寧な説明を

多額の予算が必要な一年になる。積算のミスや経済変動によって億単位で事業費に影響が出ることを改めて肝に銘じ、市民に真剣に説明を。

市長) 市民の皆様のご理解をいただけるよう、様々な場や手段を通し説明に最大限努めていく。

●情報システムの運用改革でコスト削減を

これまでコスト面や管理上の脆弱性を指摘してきた。調達ガイドラインを早急に策定して課題を解決し、セキュリティ対策にも万全を期せ。

市長) 見直しや充実に努めていきたい。

●防災危機管理と地域コミュニティの確立を

①生活、地域に密着した女性の視点が重要だ。

市長) 災害時の避難所運営のみならず、より幅広く女性の視点を防災計画に盛り込んでいく。

②災害時要援護者対策の支援者である民生委員をはじめ、自治会や防災会の高齢化が進む中、「地域のひろば」等を通じ多くの市民参加を。

市長) 指摘に沿い、地域で顔の見える関係を通じて災害時の対策を確立したい。

●高齢者の「生きがい事業」は市が反省を

今回の再構築は市の説明不足で利用者に多大な不安を与えている。猛省を求めるとともに、利用者の声を丁寧に聞きながら進めるべきだ。

市長) 率直に反省し利用者へ最大限配慮をする。

●なぜ「がん検診事業」を縮小するのか

対象年齢の引き上げや婦人科検診では廃止項目もあり予防や早期発見の考えと逆行している。

市長) がん検診は30歳以上を国の基準に合わせ40歳以上にした。医師会と協議し決めた。

●「食育」事業は母子保健、成長発達、介護予防等、本来全庁的に一元化して取り組むべき重要課題だ。遅れている計画も早急に策定を。

市長) 庁内連携を強化し推進していく。

●ごみ問題について 学校給食の残さ堆肥化の推進は評価するが、食育、減量化、処理費用の上でも、残さ自体を減らす取組みが必要だ。

市長) 指摘に沿って啓発活動等に努めていく。